

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	世界トップレベル国際研究拠点形成促進	事業開始年度	平成19年度	作成責任者		
担当部局庁	科学技術・学術政策局	担当課室	科学技術・学術戦略官付 (推進調整担当)	科学技術・学術戦略官 (推進調整担当) 大山真未		
会計区分	一般会計	上位政策	科学技術システム改革の先導			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-	関係する計 画、通知等	新成長戦略(平成22年6月18日閣議決定) 第3期科学技術基本計画(平成18年3月28日閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	近年、優れた頭脳の獲得競争が世界的に激化している中で、我が国が科学技術の力で世界をリードしていくためには、優秀な人材の世界的な循環の「環」の中に位置付けられ、内外の研究人材が自然に蓄積されるような研究機関を我が国にも作っていくことが必要である。 本事業においては、世界的な著名研究者を拠点長として責任者に位置付け、その下に高いレベルの研究者が結集する、優れた研究環境と高い研究水準を誇る世界トップレベルの研究拠点を形成することを目指す。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	本プログラムは、大学等を対象とし、高いレベルの研究者を中核とした拠点形成を目指す構想に集中的な支援を行う。研究対象は、基礎研究分野(基礎から応用への展開を目指す分野を含む。)で、複数の分野にまたがる融合領域とする。5年ごとの評価を経た上で、1拠点当たり年間約14億円の支援を10年間(特に優れた拠点については15年間)行う。本プログラムは研究費を提供するプログラムではなく、拠点形成のための基盤的経費を支援するものであり、各拠点には国からの支援額と同程度以上の研究費等のリソースを別途確保することを求めている。本補助金は機関に対する定額補助となっている。					
実施状況	平成21年度は、平成19年度に採択した5拠点に対して、支援を行っている。 平成22年度は、新規に1拠点の拡充を図る。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	3,500	7,109	9,109	7,283	8,218
	執行額	3,497	7,108	8,974		
	執行率	99.9%	99.9%	98.5%		
	総事業費(執行ベース)	11,113	21,999	8,974		
自己点検	支出先・ 用途の把 握水準・ 状況	書面調査及び現地調査により額の確定行為を実施し、毎年度の支出先・用途の把握を適切に行っている。 また、大学の学長や、学長経験者、ノーベル賞受賞者、産業界、そして、著名外国人有識者6人(リタ・コーウェル[元NSF長官・メリーランド大学教授]、イアン・ハリディ[欧州科学財団総裁]等)を含むプログラム委員会(委員長:井村裕夫[元京都大学総長])において、進捗状況の評価を行っている。具体的には、毎年、既存の拠点について、拠点長及び学長等からヒアリングを行うとともに、プログラム・ディレクター(各拠点の活動の進捗状況の把握、指導を担当)からの報告を聴取することにより、各拠点の活動の進捗状況の評価を行っている。				
	見直しの 余地	各年度のプログラム委員会の指摘事項(2008年度報告では一部拠点において国際化が不十分との指摘等)に対する対応状況をフォローアップするとともに、平成23年度には事業の進捗が当初の計画通りとなっているかどうか、既採択拠点の中間評価を実施し、計画の変更、中止等の見直しを行う。また、プログラム委員会の開催にあたっては外国人有識者を含むことから、議題の集約等により効率的な開催を図る。				
予算監 視の・ 所効 見率 化チ ー	1. 事業評価の観点:この事業は、国の内外から高いレベルの研究者が結集する世界トップレベルの研究拠点の形成を目指す競争的資金である。 2. 所見:平成22年度新規採択拠点に対する経費の平年度化に伴う増は認められるものの、かわりに、業務支援に関する委託費について、他の事業に対する公開プロセスでの指摘等を踏まえ、競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性を確保しつつ、本事業を効果的・効率的に推進するために真に必要な業務に限定するよう委託内容を精査するとともに、その他の経費についても積算を見直すことにより、予算を縮減すべきである。また、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」に沿って資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化を進めるなど、研究者にとって使いやすく、かつ、国費が有効に使われるような事業にしていくべきである。さらに、今後は、各拠点の進捗状況に対する厳格な評価の実施などにより、事業の効率化を一層進めるべきである。					
補 記	平成21年度は、予算額9,109百万円のうち133百万円を翌年度へ事故繰越した。					

文部科学省  
8,974百万円

職員旅費 0.8百万円  
外国旅費 0.4百万円  
庁費 0.03百万円

を含む

世界的な著名研究者を拠点長として位置付け、その下に高いレベルの研究者が結集する、優れた研究環境と高い研究水準を誇る世界トップレベルの研究拠点を形成することを旨とする。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

【公募・補助】

【委託・随意契約】

A. 大学、独立行政法人  
計: 5機関  
支出総額: 8,867百万円

B. 日本学術振興会  
支出総額: 106百万円

世界トップレベルの研究拠点形成

世界トップレベル研究拠点プログラムに関する業務支援(審査・評価・管理)

A.京都大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
設備備品等費	幹細胞遺伝子発現解析システム整備	1,000			
人件費	拠点長、事務部門長及び主任研究者等給与	630			
事業推進費	招へい研究者の研究環境整備のための経費、国際シンポジウム開催等	408			
間接経費		312			
計		2,350	計		0
B.日本学術振興会			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
旅費	国内旅費、外国旅費、外国人等招へい旅費、招へい外国人滞在費	27			
諸謝金	プログラム委員等への諸謝金	23			
人件費	担当職員給与	17			
雑役務費	事務補助員雇上、アンケート調査	16			
一般管理費		10			
会議開催費	プログラム委員会開催費	7			
その他	消耗品等、通信運搬費、印刷製本費、電子計算機諸費、消費税相当額	6			
計		106	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごと  
 に最大の金額が支出さ  
 れている者について記  
 載する。使途と費目の  
 双方で実情が分かる  
 ように記載)

## 「複数支出先ブロック」の支出先一覧

### A. 国際研究拠点形成促進事業費補助事業

	支出先	支出額(百万円)
1	京都大学(iCeMS)	2,350
2	東京大学(IPMU)	2,342
3	物質・材料研究機構(MANA)	1,475
4	東北大学(AIMR)	1,350
5	大阪大学(IFReC)	1,350
合計		8,867